

本塾地区



2 えいふくじやくしどう 栄福寺薬師堂 1棟 附:厨子1基・棟札1枚

【指定年月日】 昭和29年9月17日 【所在地】 角田2

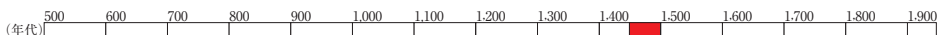
栄福寺は行基による開基と伝えられていますが、その沿革は明らかではなく、今も熊野神社と同じ境内にあり、神仏習合の形態が残ります。

茅葺寄棟造の三間堂で、正面階段部分の向拝は江戸時代中期に設けられました。

外陣には天井に極彩色の天女図が、内陣には極彩色の須弥壇が設けられています。

なお、棟札に「寛正七年六月柱立 応仁三年霜月上棟 文明四年二月二十三日成就」とと墨書銘があり、建立年代の明確な県下最古の建造物です。

*寛正七年：1466年、応仁三年：1469年、文明四年：1472年

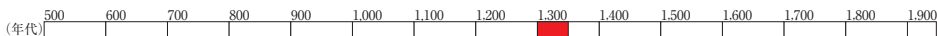


10 もくどうこんごうり きしりゅうぞう 木造金剛力士立像 2躯

【指定年月日】 平成3年2月15日 【所在地】 滝1009(瀧水寺)

両像とも一般的な形の金剛力士像で、松材で造られています。阿形像は一木造で像高230cm、吽形像は寄木造で、像高235cmです。

阿形像の動きを抑えた姿勢はまとまりがよく、忿怒の表情や筋肉表現、腰裳の翻りには極端な誇張がなく、全体的に質実な力強さがあり、作風からみて鎌倉時代末期に造像されたと考えられています。

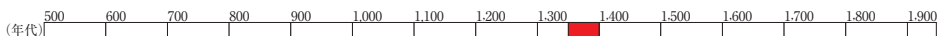


14 ほんしょう 梵鐘 1口

【指定年月日】 昭和47年1月28日 【所在地】 竜腹寺626(龍腹寺)

総高122.7cm、口径69.1cm、3段組で鋳上げられた、撞座が1か所のみの大変珍しい梵鐘です。

銘文には下総印西莊龍腹寺の寺名、作者である谷田部三郎兵衛の名前、当寺の普門坊賢勝の名が刻まれています。紀年銘はありませんが、南北朝時代の制作と考えられます。



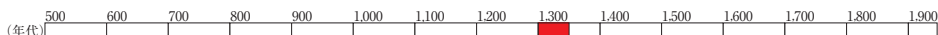
15

ぼんしょう けん む ご ねんざいめい
梵鐘・建武五年在銘 1口

【指定年月日】 昭和47年1月28日 【所在地】 滝1009(瀧水寺)

総高99.6cm、口径58.2cm、3段組で錆上げられた梵鐘です。

銘文は下総国瀧水寺ではじまり、建武5年(1338)の紀年銘が刻まれています。他の梵鐘に比べると小ぶりですが、欠所が見当たらない美しい梵鐘です。

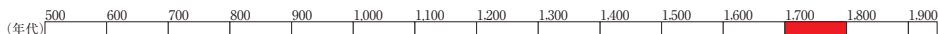


19

おしつけ みづが
押付の水塚

【指定年月日】 昭和53年2月28日 【所在地】 押付地先(個人宅)

水塚は、利根川下流域で洪水から住宅や生活用品を守るために、平地より高く土を盛り上げた上に土蔵、住宅等を建てたものです。印旛沼周辺を流れる利根川、長門川、将監川の氾濫に対して、利根川上流である群馬県の水塚をこの地方で利用したものです。築造年代は近世中期といわれ、市内では本埜(埜原)地区や発作、六軒地区に分布しています。特に指定となっているお宅では、屋敷全体を付近より高くして水塚としており、その上に屋敷の一隅をさらに高くして土蔵を建て、洪水時に利用するあげ舟やそれを収納しておく納屋などが所在します。



21

と み じんじゃ かぐら
鳥見神社の神楽

【指定年月日】 昭和36年6月9日 【伝承地】 中根1339(鳥見神社)

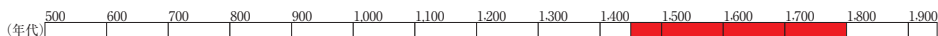
毎年10月17日、鳥見神社例大祭に社前の神楽殿で演じられ、大和神楽または十二座神楽と呼ばれています。

演者は14人で、内容は「捧幣式」「かため巫女」「かため翁の神」「国かためくなどの神」「五穀祖神種新」「千筋笈弓」「海上めきょう楽」「神剣宝鏡」「神笹行事」「天狐乱舞」「おのころ島起源」「出雲国しずめ」「山神悪鬼徐伏」「宮殿作行事」「大岩戸前事」「大神宮」



からなり、神代の物語と郷土の農耕生活を反映したものとなっています。

文安年間(1444～1449)から始まったと伝えられ、現在使われている16の面の大半に宝暦元年(1751)作の銘が入っています。

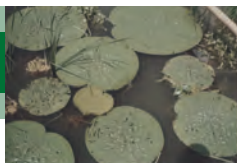


県指定天然記念物

23

しょうげん はっせいち 将監のオニバス発生地

【指定年月日】 昭和52年3月8日 【所在地】 将監地先



オニバスは直径が30cmから200cmの大きな葉を水面に浮かべるスイレン科の一年生の水生植物で、8月下旬から9月末にピンクや赤紫色の小さな花（開放花）が開花します。

かつては、本州、四国、九州の湖沼や河川に生息しており、印旛沼をはじめ、利根川の氾濫でできた湖沼や堀などに広く認められましたが、環境省のレッドリスト絶滅危惧Ⅱ類に記載されており、現在は市内で開花を見ることはできません。

市指定有形文化財(彫刻)

24

ふくじゅいん あみださんぞんりゅうどう 福聚院阿弥陀三尊立像 3 軀

【指定年月日】 平成5年6月22日 【所在地】 中根1378(福聚院)



製作年代、仏師名とも不明ですが、製作技法、願容（特に^{みみたぶ}耳朶）や複雑で彫りの深い衣文線等^{えもんせん}の特徴から、鎌倉時代初期に京都・奈良で活躍していた慶派（運慶・快慶を中心とした仏師集団）に所属していた仏師によって製作されたと思われます。製作後大正末期までに4回にわたる修理の痕跡があります。

(年代) 500 600 700 800 900 1,000 1,100 1,200 1,300 1,400 1,500 1,600 1,700 1,800 1,900

市指定有形文化財(彫刻)

25

やくしにょらいりゅうどう 薬師如来立像 1 軀

【指定年月日】 平成22年2月19日 【所在地】 滝1008-1(瀧水寺)

^{わりはぎづくり}割刻造で製作された像高96.5cmの薬師如来立像です。制作者及び制作年は不明ですが、平安時代後期（12世紀）の作と思われます。全体的に丸みを帯び柔らかな表情の作風は、11世紀前半に仏師定朝がうみだした定朝様の特徴がみえます。



(年代) 500 600 700 800 900 1,000 1,100 1,200 1,300 1,400 1,500 1,600 1,700 1,800 1,900

市指定有形文化財(工芸品)

27

まんだらかけく 曼荼羅掛軸 1 幅

【指定年月日】 昭和54年5月28日 【所在地】 笠神725(南陽院)

^{たいどうがいまんだら}胎蔵界曼荼羅といわれる掛軸仕様の仏画で、曼荼羅とは梵語Mandalaを音訳した言葉で、一般的には諸仏、諸尊を一定の法則によって配列して紙や布に描いたものをいいます。最上段に3体、2段目から6段目に各々5体の仏像を描いた、信仰の対象としてふさわしい気品のある作品ですが、製作年代は不明です。

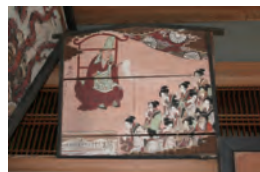


市指定有形文化財(工芸品)

30 ^{りゅう こ じ え ま} 龍湖寺絵馬 11面

【指定年月日】 平成5年6月22日 【所在地】 物木213(龍湖寺)

龍湖寺を開いた覚海賛元禅師は、安産、子育ての祈禱を良くし、靈験があったとされたことから、近在の女性たちが講をつくり、横1m以上の「拝み絵馬」を奉納しました。絵馬は江戸時代中期から明治時代中期にかけて奉納され、当時の信仰の形態、女性の風俗、絵画技術などを窺うことができます。



500	600	700	800	900	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900
(年代)														

市指定有形文化財(歴史資料)

38 ^{こうさつ ごぼう けいじ} 高札(五榜の掲示) 3基

【指定年月日】 平成17年7月6日 【所在地】 酒直ト杭地先(個人所有)

この高札は、「五榜の掲示」のうちの第1札と第2札で、酒直ト杭新田で名主を務めた家に伝わるものです。五榜の掲示とは明治元年(1868)3月、明治政府が旧幕府の高札の撤去と、5札の太政官札の啓示を命じたことにより掲げられました。なお、第3札は所有者宅より本埜第二小学校へ寄付されており、第4札と第5札は伝存していません。



500	600	700	800	900	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900
(年代)														

市指定無形民俗文化財

41 ^{はちまんじんじゃ しし まい} 八幡神社の獅子舞

【指定年月日】 昭和49年4月1日 【伝承地】 中根187

4月下旬に春の農作業の始まりの神事の行事として行われます。おやじ(親父)、かか(母)、せな(若者)の3人の踊り手が力強く踊って、稲の初蒔きの終わりを祝い、豊穰を祈ります。



500	600	700	800	900	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900
(年代)														

市指定記念物(天然記念物)

48 ^{ふじ き} 藤の木 1樹

【指定年月日】 昭和54年5月28日 【所在地】 中根地先(個人宅)

熊野大権現のご神木としてこの地の草創時に植えられたと伝えられます。樹齢約1000年、樹高約15m、根回り1m余りです。この藤の木に由来して、昔はこの地を「藤の方」と呼び、現在は小字名「藤方」として名残をとどめています。



500	600	700	800	900	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900
(年代)														